

蟻蚶はたく 江戸にてが。ち。又。ば。つ。た。又。ま。や。う。れ。う。ば。つ。た。と云。上野にてば。た。といふ。信州にてほ。つ。た。と云。駿河にてが。た。き。と云。伊勢にてね。ぎ。ど。の。と云。奥州仙臺にては。つ。た。と云。津輕にてとう。ぼう。と云。出雲にてほ。け。の。馬。と云。長崎にてた。な。ば。たと云。

〔重修本草綱目啓蒙^{二十八}化生蟲〕蟲 蠶 オホイナゴ オイタチ京 トノサマバツ タ江 江戸

秋時多ク出形ハ蠶^キスニ似テ首圓目大ナリ、身長サ一寸餘翼アリ、ソノ色或ハ緑或ハ褐ソノ鳴クコト股ヲ以テ相撃テ聲ヲナス、又一種大ナル者アリ、クルマバツ タ江 江戸ト云中 又一種形小

ニシテ長サ七八分許ナル者アリ、イナゴ京 ト云フ中 イナハツ タ南 部中 略。等ノ稱アリ、此蟲

ニモ綠褐ノ二色アリ、皆稻ニ集リ、葉ヲ食ヒ、害ヲナス、略中 整蠶ハイナゴゴ マ和 名イ 子ツ キ

コマ同 上 セウライム京 オシヨライ子 ギムシ 同上中 略。セウレウバツ タ共 同

上江 中略 ホトケノウ中 略。此蟲ハ蠶スヨリ狹瘠首尖リテ、兩角ナラベリ、綠色褐色ノ二品

アリ、雄ナル者ハ長サ一寸許雌ナル者ハ長サ一寸半ヨリ三四寸ニ及ブ者アリ、背後ヨリ尾ニ至

ルマデ色赤シ、翼ニ掩レテ見ヘズ、飛ブトキハ翼股ニフレテ聲アリ、故ニバタバタト名ク、ソノ内

羽ノ黄色アラハレテ美ハシ、促織志ニ、螞蚶之種三俱不鳴青翼而黃身、躍近而飛遠、飛則見其襲羽、

或紅焉或黃焉、曰螞蚶、其青而長身者曰匾蠶、嬉者股繫而提之、使飛不止、以觀其襲羽ト云下 略

〔續世繼^五濱千鳥〕入道おほきおと藤 原忠 通 御心のいろめきておはしまし、かばと ときめき給かた

かたおほくてきたのかた宗 子藤 原は きびしくものし給しかど もはら になんきん だちおほ

くおはしまし略 中北のかたの御はらにをのこ君たちもおはしまさで 女院藤 原ば かりも

ちたてまつり給へるにつけても、おほかたもそねましき 御心のふかくおはしましけるにや、御

房奈 真ノ 惠信 たちのおさなくおはしまし、よりおとなまで、あかくもよせ申さ せたまはず、

いなごなどいふむしの心をすこしもたせたまはず、よく侍らましき ささきなどは、かのむしのや